

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



周期性発熱 と 小児リウマチ性疾患

繰り返す発熱の中には、保育所や幼稚園デビューでたくさんのウイルスや細菌にさらされ、いわゆる「風邪」を繰り返していることが少なくありません。その中に周期的に熱を出すだけでなく、発疹や関節痛などを繰り返す病があります。そういった場合は、小児リウマチ性疾患が疑われます。

小児リウマチ性疾患とは

リウマチというと大人の病気のように思われるかもしれませんが、子供の病気の中ではあまり多くはないのですが、めずらしい病気であることに加え、たくさんの種類があるためになかなか診断がつかないということがよくあります。

ほとんどの場合、発熱が主症状

…自己免疫疾患

若年性特発性関節炎・小児全身性エリテマトーデス・小児皮膚筋炎など

…自己炎症性疾患

家族性地中海熱・TRAPS・CAPS・高IgD症候群・Blau症候群など

どうやって診断するの？

症状の経過からいくつかの疾患に的を絞って、まずは血液検査を行います。

- 自己免疫疾患は成人と共通の診断基準に基づいて診断をします。
- 自己炎症性疾患はある程度診断がついたところで、遺伝子の検査について、ご両親と理解できる年齢であればご本人に十分説明をした後、各専門の施設に検査をお願いすることになります。ほとんどが遺伝性の病気で、100%ではありませんが、遺伝子の検査で診断がつきます。

治療法はそれぞれです

発熱や発疹、関節痛など共通する症状がありますが、疾患によって治療は大きく違うこともあります。



小児科部長
芥 直子

(社)日本小児科学会認定小児科専門医
愛媛大学1985年卒業、医学博士

小児リウマチを診断するためにはその病気を知っている医師にめぐり合うことも大切ですし、診断がつくまで根気よく医師とのコミュニケーションをとることも大事です。診察に行ける距離であれば、症状と経過を診てもらうために小児リウマチ性疾患の専門施設を受診していただくこともあります。

成人のリウマチ専門医に比べると、小児リウマチ専門医の数は極端に少なく、専門医がいない地域のほうが多いのではないかと思います。お子さんの長引く発熱や繰り返す発熱で心配な時には、発熱と発熱時に繰り返される症状の経過情報をお持ちになり、できるだけ早めにご相談に来られることをお勧めします。

お子さまの熱、発疹、関節痛などの症状でお困りの方は、当院へご相談ください。

ご予約方法

電話予約 **04-7123-5901**

月曜日～土曜日 9:00～16:00 ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>